

日常の信頼から医療へツナグ、地域医療連携

「長生きを喜べる社会」の実現

地域のむすびプロジェクト



新聞販売店の地域貢献プロジェクトから生まれる
お困りごとを解決する『地域共創プラットフォーム』



地域の多様な関係者で創る
地域医療連携の仕組み



地域の課題解決

一歩踏み出さないと変わらないから！

中日新聞(2025年9月14 中日春秋から)



中日春秋

全国的に秋祭りのシーズンだろ。うちの町内はこの土、日曜におみこしが出る。近所の神酒所をのぞくと、顔見知りのおばあさん、おじいさん方が忙しそう。こういう場所では世間話も弾むのだろ。何だか、うれしそう、いつもより元気にみえる▼神酒所の様子が一茶の句に重なる。へば、達やおどけ咄で田を植る。高齢の女性たちが笑い話をしながら田植えをしている様子を詠んでいる。そのたくましさ。田んぼからの大きな笑い声が聞こえてくる▼夏の暑さがしぶとく残るが、明日は敬老の日。一茶の句に健康を維持し、老いを楽しむコツのようなものが隠されているような気がする▼あの句のへば、達には田植えという任せられた役割がある。今の時代なら社会参加とでも言い換えられるか。加えて、おどけ咄をとにもする仲間がいる。孤独ではない。へおどけ咄を楽しむ笑いやユーモアの心がある▼65歳以上の高齢者人口の割合は2割を超えている。老いという言葉が社会保障費の増大などネガティブな文脈の中で語られやすい時代がくやしいが、いつまでも元気で楽しく過ごしていただきたい。高齢者は若者の未来の姿。高齢者が幸せではない社会は誰にとっても幸せな社会ではないだろう▼社会参加、仲間、笑いをぜひ元気のヒントにしていたきたい。そういえば、一茶も当時としては長生き(65歳)だった。 2025.9.14



『高齢者は若者の未来の姿』

高齢者が幸せでない社会は誰にとっても幸せな社会ではないだろう！

『長生きを喜べる社会』を創るために、

私たちは、新たな“まちづくり”を、新たなテクノロジーと、医療・福祉関係者と、産・官・学・連携で、「相互扶助：共存共栄」の『自立できる地域医療連携』の支援体制を目指します。

中日新聞販売店/両藤舎
佐藤円一郎

ICTでむすぶまちづくり研究所が考える 地域が医療・介護を支える仕組み

私は、「長生きを喜べる社会」という言葉が好きです。

ICTでむすぶまちづくり研究所 顧問
国立長寿医療研究センター 名誉総長 大島伸一

この言葉は、小泉元首相が二期目の所信表明演説で使用された言葉です。
小泉首相は「長生きを喜べる社会」とはどんな社会なのか、その時もその後も詳しく触れることなく政権を終え、私には不満でしたが、実際にはその答えは当時も今も誰も解っていないというのが正解でしょう。

日本に生まれ育ち、そして老い死んでゆく、より多くの方が人生を終えるときに、いろいろあったが「長生きしてよかった」と言えるような社会とはどんな社会なのか。

こんな思いを叶える事が出来る、新たな“まちづくり”を、新たなテクノロジーと、医療・福祉関係者との連携で、産・官・学を巻き込んで、地域ごとに「相互扶助：共存共栄」の自立できる支援体制をつくることで、叶えられると思っています。



※

地方(地域)創生においては、誰もが安心して気軽に相談できる
「お困りごと窓口」をつくることが、有効な解決策だと考えます。

病院の壁を越え、市民の皆さんの安心網を創る。

診察室では見えない日常の異変を、医療へ繋ぐ。

高齢化で、必要な医療支援を受ける事が難しい高齢者が増える中、病院の壁を超えた、「地域全体で支援が必要な皆さんを支える仕組み」を創ります。

医療・看護・調剤を市内で完結させる、**真の地域医療連携をいま医師会の先生方と共に。**

「断らない支援体制」の構築（医療・福祉連携）

頼れる身寄りがない高齢者が増える中、地域包括支援センターや社会福祉協議会と連携した「断らない相談窓口」を新聞販売店が開設。行政区内の信頼のおける関係者とシームレスに連携します。

要点

訪問医療（オンライン診療）



訪問看護



調剤（オンライン服薬指導）



ICT在宅見守り

地域のむすびプロジェクト

地域医療連携 意見交換会

令和8年8月20日

企画 株式会社両藤舎 佐藤社長

参加メンバー

両藤舎/佐藤社長、ひなたぼっこさと/上原社長、むすびGroup/三宅

国立長寿医療研究センター 大島名誉総長

多治見市医師会前会長 加納先生

現会長 安藤先生

安藤先生の娘婿 大村さん

医師会の目標 市民は市内の病院で完結する体制を

加納先生 中京学院大学(設立準備会メンバー)

看護学部、経営学部を巻き込んだ、産官学連携の、地域支援体制の勉強会を開催

目的は？

- ・商品の配達から生まれる、お困りごとの聞取りを、地域関係者(協力事業者等)にツナゲル仕組み
- ・地域支援体制の構築[アクティブシニア、資格も持った支援者(看護)、意欲ある若者]
- ・それに伴う、調剤の配達
- ・介護・看護師等との連携の仕組み
- ・行政との連携で、民間の医療・介護の、保険外サービスの適正なルール化

相談先が分からない皆さんが多いから、

「お困りごと相談窓口」を開設します。



中日新聞販売店による
読者の安全確認サービスが強化

中日新聞定期購読者向け

み・まも～る + プラス

多治見地区中日新聞販売店の

日々の生活の「お困りごと」開設
ご相談窓口

高齢社会生活支援サービス
「まごころサポート」

お困りごと
解決に
お役立ち
します

を始めました!!

み・まも～るとは

中日新聞が提供する無料の読者安全確認サービス
中日新聞では、「毎日、配達する報をポストから抜かれているか」で、
ご家族の安全を確認する無料サービスを行っております。見守って
ほしいご家族等が中日新聞をご購読されれば誰でも加入可能です。

**み・まも～る
プラス**とは



さんぽん君◎

中日新聞の無料、読者安全確認サービス(み・まも～る)に
加えて、日々の生活の「お困りごと」を解決する相談窓口を
開設しました。それが「**み・まも～るプラス**」(有料サービス)

お近くの中日新聞販売店にご相談ください!!



買い物支援



こんなこと
で悩むひた
お困りごと
大歓迎!



作業支援



お問い合わせ
相談窓口

お近くの日新聞販売店
み・まも～るプラス多治見

「まごころサポート」

中日新聞 多治見両誼舎

F507-0026 多治見市深沢町1丁目31
TEL0572-22-3500 (土日祝曜 10:00~16:00)

多治見地区中日新聞販売店

中日新聞販売店の地域貢献活動。 市内の皆さんの「お困りごと」もサポートします。

お困りごとは
お気軽に
お電話ください

み・まもへるプラス

ちょこっと

「まごころサポート」

新聞販売店がはるかに！暮らしの中のお困りごとと相談。

家ごころちょこっとサポートは、
安心のチケット制です。

※サポートのご利用は、事前にチケットをご購入ください

1シート 3,000 円(300 円 × 10 枚)

困りごと相談は、販売用スタッフが販売店にお申し付けください。

お試しチケット 1 シート 1,500 円(300 円 × 5 枚) もございます。

※ご利用は事前予約制です

まごころちょこっとサポートの内容は、

● ちょとした家事手伝いなどです

● 具体的には、「買い物代行・代行」、「ゴミ出し」、「ゴミ捨て」、「電話・器具取替」、など

● 上記以外の内容でもお気軽にご相談ください。

生活支援

買い物支援

作業支援

新聞販売店では、
解決できない
お困りごと

この相談内容によっては、市内の専門家の皆さんと連携して、皆さんの「お困りごと」を解決します。

新聞販売店は：住民に一番近い、地域創生のハブ

チケット購入に関する
お問い合わせ

中日新聞 多治見両森舎
まごころちょこっとサポート

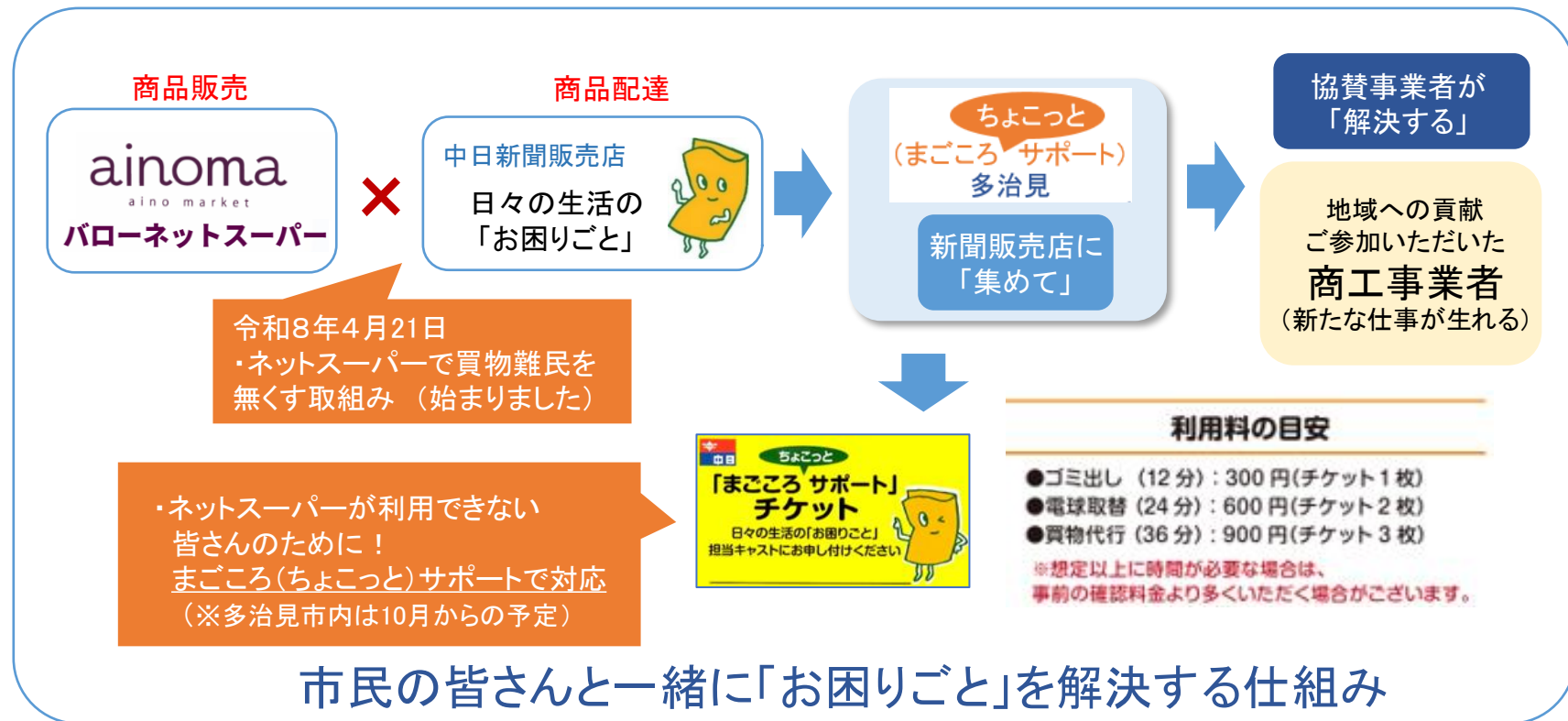
TEL 0572-2-3500
TEL 070-4497-0111

新聞休刊日と
土日祝除く
10:00～16:00

お困りごとの「地産地消」
街の「困りごと」を、地元の「仕事」に変える！

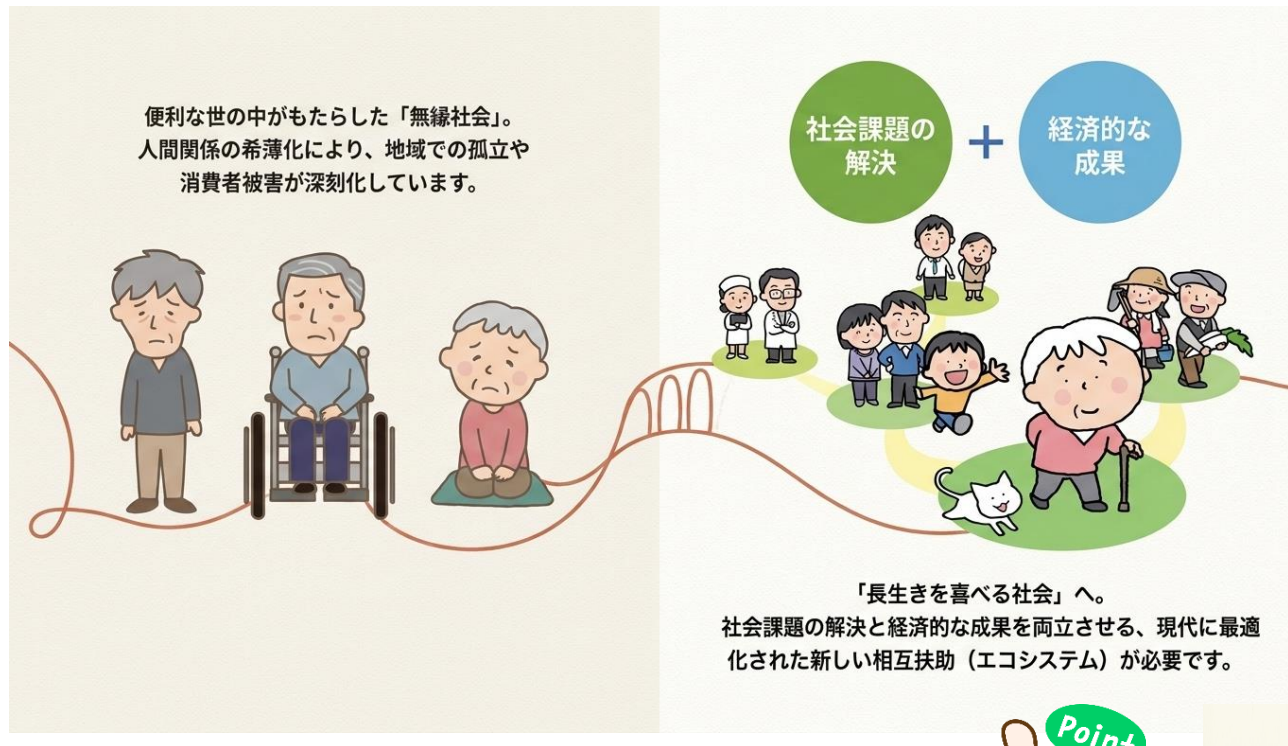
地域の皆さまと一緒に始める地域貢献事業 身近な、地域の課題解決から始めます。

地域密着型スーパー×新聞販売店の
「買い物難民を無くす」+「地域の課題解決」モデル
(令和8年4月 多治見市内でスタート)



「お困りごとの地産地消」とは、地域住民が抱える日常生活の課題を、同じ地域に暮らす人材や資源を活用して解決する地域密着型の相互扶助の仕組みです。

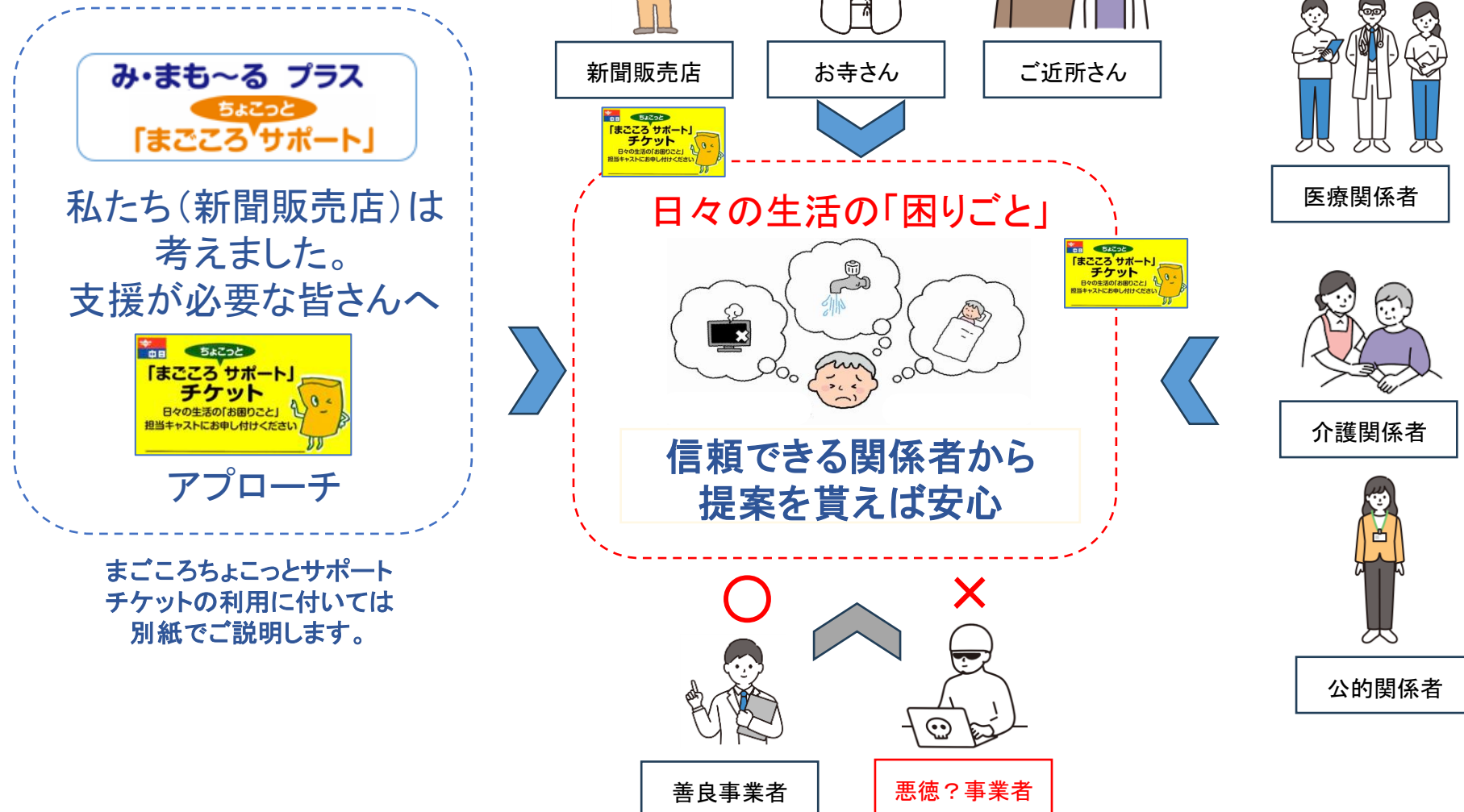
顔の見える関係者の皆さんの参加で生まれる 新常態(デファクトスタンダード) 支援が必要な皆さんを支える仕組み



【デファクトスタンダード】をつくる
公的な機関ではなく、市場の競争や普及によって
「事実上の標準」となった規格や商品

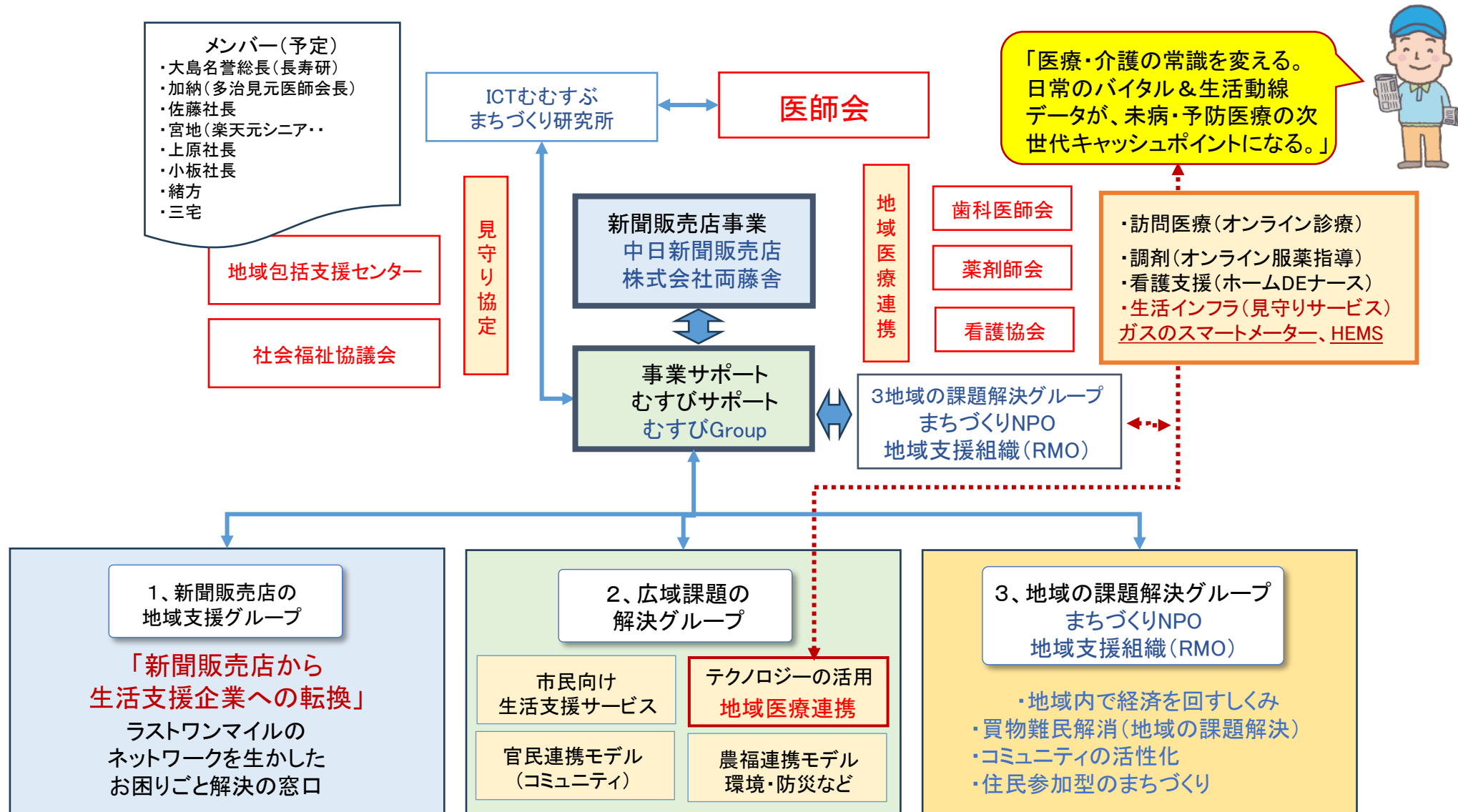


顔の見える関係者の皆さんの参加で 安心の支援体制



お困りごとと解決から生まれるビッグデータ

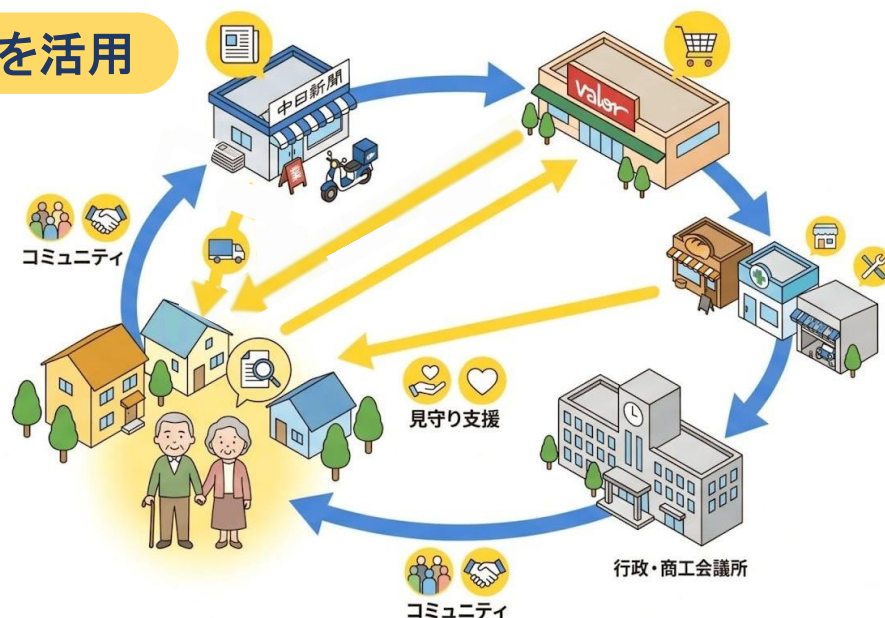
地方創生に必要な、3つの課題を解決します。



差別化のために必要な
社会的信用のある関係者で創る『地域共創プラットフォーム』は！
地域の「困りごと」を解決する、循環型まちづくり・エコシステム

新聞販売店の強み 信頼のネットワークを活用

安心して老後を迎えられる
地域の支援の仕組み



中日新聞販売店 × バロー × 地域事業者
× 行政・医師会・商工会議所 × 地域支援組織(RMO)

「地域共創プラットフォーム」とは、

産・官・学・連携で、デジタル技術を活用し、地域社会の課題解決と新たな価値創造を目指す仕組みです。自治体、医療、企業、教育機関などがネットワークを構築し、住民の意見収集や、ローカル産業の活性化をオンライン基盤上で推進する仕組み。



地域のむすびむすびプロジェクトは

循環型まちづくり・エコシステムで、
地域の「お困りごと」や「ねむっている資源」を地域の仕事に変え、そこで生まれた売上の一部をさらに地域活動へ還元していく、**公費に依存しない新しい地域づくりの仕組み**です。

「むすびGroupは、持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています」

●むすびGroupが考える地域創生プロジェクト

どこかのイチ組織が頑張るだけでは地域の課題解決は難しいと言われるから、新しい地域のカタチを創ろうと集まった専門家集団が、行政区毎に地域の皆が参加できる、相互扶助の支援体制(**むすびサポート**)をつくり活動を進めます。

●「**ICTでむすぶまちづくり研究所**」は、安心・安全なまちづくりを推進するために、各分野(医療・福祉・通信分野)の有識者でICT(センサーなど)の有効活用とDXの推進で相互扶助(互酬)のまちづくりを進めます。

● **地域のむすびプロジェクト**は、「ICTでむすぶまちづくり研究会」の行動指針を広めるために、行政区ごとに展開する(**まごころ(ちょこっと)サポート**)を作って地域展開を進めます。

お問い合わせ
まごころちょこっとサポート運営事務局
株式会社両藤舎
多治見市虎溪町1丁目31
☎ 0572-22-3500
むすびGroup
合同会社むすびdesign内
むすびサポート事務局
恵那市三郷町野井2106-2
☎ 070-4497-0111

むすびサポート(本部)は、
コミュニティ形成の場をつくって
多くの地域の多様な課題の解決を進めます

市民向け
生活支援サービス

環境・防災など
(一次産業支援)

官民連携モデル
(コミュニティ)

テクノロジーの活用
地域医療連携

新聞は、
学習や思考の深化につながる
☞ **未来の子供たちを育てる・・・
あかるい未来の日本を創る**

・NIE※(教育に新聞を)活動を通じて、
子供たちの社会への関心を高め、
課題解決に向けた行動力を育みます。



※NIEとは、学校等で新聞を教材として活用し、興味や関心の幅を広げる社会運動であり、教育手法である。